

(様式6-2)

研究成果概要

所属学校名 鈴鹿市立石薬師小学校

職・名前 教諭 松野 秀治

- 1 事業の名称 情報教育内地留学
- 2 留学先の名称 三重大学教育学部附属教職支援センター
- 3 研究主題 小学校社会科における教科書資料からの「気づき」と共有を重視した問題発見型学習法の開発と実践

4 研究成果の概要

国立教育政策研究所が2007年に行った「特定の課題に関する調査(社会)」では「学習問題を見出す力、とりわけ多様で豊富な資料(情報)をもとにしながら自力で問題を発見・把握する力の育成が不十分である」と指摘されている。社会科の教科書には写真やイラスト図表など多様な資料が掲載されており、児童が「気づき」を得るのに有効なものとなっている。しかし、小学校社会科においては、教師からの問題提示による一斉指導型の学習がよく行われている。それらの児童の「気づき」をもとにした問題発見型の学習を開発し実践することで、問題を発見する力を育成できると考えた。

そこで、本研究では、小学校社会科の教科書内の資料を読み取り、多様な「気づき」を得て、その「気づき」を共有し、問題発見につなげていく学習法の開発と実践を行い、問題を発見する力の向上に対しての有用性を検証した。また、資料の読み取り過程における適切な支援についても実践を通して検証した。

先行研究の知見や研究会への参加などを経て問題発見型学習法の学習モデルを構想した。「気づき」を得て、その「気づき」を効果的に共有するためのツールとして、各児童がタブレット端末及びタブレット端末用アプリケーション「ロイロノート」を取り入れた。実践を小学校6年生社会科の単元「新しい日本へのあゆみ」(第1時)で行った。その中でグループにより異なる資料を読み取ることで、共有の効果を高める工夫をした。実践は、資料をタブレット端末上で読み取って「気づき」を創出し、着目点を書き込み(図1)、交流・共有を行い、児童が学習問題を見出すという流れで行った。

本学習法を実践することで、資料を見て考える活動に対しての児童の学習意欲が向上し、児童が自ら学習問題を発見する力を向上させることが示唆された。「気づき」の創出場面では、タブレット端末で資料を拡大し細かい部分まで観察している様子が見られた(図2)。また、「気づき」の共有の場面では、同じ資料、異なる資料を観察した児童同士で、積極的に対話する様子が見られた(図3)。児童は当時の厳しい生活状況を物語る「気づき」を得ていた。写真から分かる事実についての「気づき」が目立ったが、事実からの推論や疑問についての「気づき」を得ている児童もいた。ほぼすべての児童が、自分の学習問題を記述することができていた。そのうち、単元のねらいに関わる問題を発見できていた児童は、全体の約65%だった。

本学習法を用いた実践は、資料の読み取りに関する学習意欲を向上させ、問題発見力を高める効果があることが分かった。タブレット端末を思考や表現のツールとして用いたことで、多くの「気づき」を生み、対話の質を向上させることができた。資料とともに適切な情報を提供することで、児童の問題意識を単元のねらいに近づけられる可能性があることが分かった。

今後の課題として、ICTを活用した即時共有機能の導入、写真以外の資料(図表や年表等)を用いた実践、学習問題の質の向上、解決過程の検討と実践について研究していきたいと考えている。



図1 「ロイロノート」を用いた着目点の書き込み



図2 タブレット端末上で資料を観察し、「気づき」を書き込む児童



図3 「気づき」の共有場面